

国宝・彦根城築城410年祭関連事業
企画展「能面再興の立役者 近代の名工・中村直彦」展示作品リスト

番号	名称	作者	数量	制作年	所蔵
明治維新以降の能楽 衰退と復興					
1	「 <small>いしん とうじ のうかく うめわかみのる</small> 維新当時の能楽 梅若実」 (『能楽』第1巻1号)		1冊	明治35年(1902年)7月1日	当館(琴堂文庫)
2	「 <small>かいきゆうだん かんぜ こ のうかく</small> 懐旧談 観世かつ子」(『能楽』第9巻8号)		1冊	明治44年(1911年)8月10日	当館(琴堂文庫)
3	「 <small>こうき じょうらんしやきょうぞう</small> 高貴ノ上覧石橋図	はしもとちかのぶ 橋本周延	3枚続	明治13年(1880)	立命館大学アート・リサーチセンター
能面再興の立役者 中村直彦					
4	「 <small>のうめん きほう しもむらほうざん</small> 能面の作法について 下村豊山」 (『能楽』第7巻1号)		1冊	明治42年(1909年)1月1日	当館(琴堂文庫)
5	「 <small>のうめんほぞんかい のうかく</small> 能面保存会」(『能楽』第8巻10号)		1冊	明治43年(1910年)10月10日	当館(琴堂文庫)
6	「 <small>しもむらきよときし さくぞう のうかく</small> 下村清時氏作壇」(『能楽』第9巻12号)		1冊	明治44年(1911年)12月10日	当館(琴堂文庫)
7	「 <small>のうめんせいさく にんまたあらわ のうかく</small> 能面制作者人又顕る」(『能楽』第9巻5号)		1冊	明治44年(1911年)5月10日	当館(琴堂文庫)
8	「 <small>のうめんせいさくしゆい しよ のうかく</small> 能面制作趣意書」(『能楽』第9巻11号)		1冊	明治44年(1911年)11月10日	当館(琴堂文庫)
9	「 <small>なかむらのうめんのしらべおぼえ</small> 中村能面のしらべおぼえ」		1紙	大正14年(1925年)7月13日	当館(井伊家伝来文古書)
中村直彦の能面制作					
10	「 <small>のうめん うば</small> 能面 姥	ほかんみつなお 甫閑満猶	1面	江戸時代・享保7年(1722)	当館(井伊家伝来資料)
11	「 <small>のうめんせつこう がた うば</small> 能面石膏型 姥	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	昭和11年(1936)6月16日	中村美恵子氏・暁氏
12	「 <small>のうめん くも</small> 能面 蜘蛛	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
13	「 <small>のうめんせつこう がた くも</small> 能面石膏型 蜘蛛	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	なかむらみえこ 中村美恵子氏・暁氏
14	「 <small>のうめん いかく せんじん</small> 能面 一角仙人	なかむらふせき 中村卓石	1面	江戸時代・文化8年(1811)	当館(井伊家伝来資料)
15	「 <small>のうめん いかく せんじん</small> 能面 一角仙人	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
16	「 <small>ちようこくとう ちようこくとうだんす なおひこしよよう</small> 彫刻刀および彫刻刀筆筒(直彦所用)		1式	明治時代後期～昭和時代初期	中村美恵子氏・暁氏
中村直彦の能面					
17	「 <small>のうめん ぱくしきじよう</small> 能面 白色尉	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
18	「 <small>のうめん ひげこじよう</small> 能面 髭小尉	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
19	「 <small>のうめん さんこうじよう</small> 能面 三光尉	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
20	「 <small>のうめん み ちゆう</small> 能面 べし見悪尉	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
21	「 <small>のうめん ちゆう み</small> 能面 中べし見	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	昭和時代初期	中村美恵子氏・暁氏
22	「 <small>のうめん おおとびで</small> 能面 大飛出	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
23	「 <small>のうめん ひひ</small> 能面 拂々	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
24	「 <small>のうめん あわおとこ</small> 能面 淡男	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
25	「 <small>のうめん たか</small> 能面 鷹	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
26	「 <small>のうめん やせおんな</small> 能面 瘦女	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
27	「 <small>のうめん はしひめ</small> 能面 橋姫	なかむらなおひこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)

番号	名称	作者	数量	制作年	所蔵
28	のうめん 能面 ほんにや 般若	なかむらなおいこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
29	のうめん 能面 いまわか 今若	なかむらなおいこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
30	のうめん 能面 しょうじょう 猩々	なかむらなおいこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
31	のうめん 能面 よろぼし 弱法師	なかむらなおいこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
32	のうめん 能面 しゅんかん 俊寛	なかむらなおいこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
33	のうめん 能面 こおもて 小面	なかむらなおいこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
34	のうめん 能面 ます かみ 十寸髪	なかむらなおいこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
35	のうめん 能面 ふじなみ 藤波	なかむらなおいこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
36	のうめん 能面 うば 姥	なかむらなおいこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
37	のうめん 能面 かおなが 顔長	なかむらなおいこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
38	のうめん 能面 きばとびで 牙飛出	なかむらなおいこ 中村直彦	1面	大正時代～昭和時代初期	当館(井伊家伝来資料)
39	のうめん 能面 おきな 翁	なかむらなおいこ 中村直彦	1面	昭和時代初期	中村美恵子氏・暁氏
40	のうめん 能面 ほんにや 般若	なかむらなおいこ 中村直彦	1面	昭和時代初期	中村美恵子氏・暁氏

作品解説

1 「能面制作趣意書」(『能楽』第9巻11号) 1冊(作品リストNO. 8)

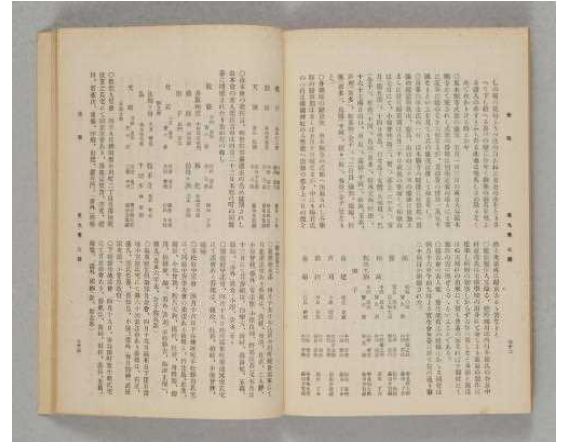
縦 22.0cm 横 15.0cm

明治44年(1911)11月10日

当館(琴堂文庫)

明治44年(1911)、直彦の能面制作を支援する後援会が発足しました。これにあたって直彦が掲げた趣意書。この中で直彦は、現在使用されている古い面は損傷が進み、また新しく面を制作する者もなく、加えて能面の海外流出も相次いでおり、このままでは今後、能面は失われてしまう、これを防ぎ能楽を発展させるためには、面の新調と修繕が急務であると述べています。後援会には、直彦の東京美術学校入学を援助し、卒業後に能面制作に従事するよう要請した細川家16代当主護立(1883~1971)、能楽を愛好した井伊家15代当主直忠(1881~1947)ら華族のほか、能楽師も多数、名を連ねています。

なお、琴堂文庫とは直忠の蔵書のことです。琴堂は直忠の号。



2 能面 姥 1面(作品リストNO. 10)

甫閑満猶作

面長 21.3cm 面幅 14.5cm 面奥 7.6cm

江戸時代 享保7年(1722)

当館(井伊家伝来資料)



2 能面 姥

3 能面石膏型 姥 1面(作品リストNO. 11)

中村直彦作

面長 21.4cm 面幅 14.7cm 面奥 7.8cm

昭和11年(1936)6月16日

中村美恵子氏・暁氏

2は、年老いた女性を表した能面で、井伊直忠が収集した面の一つ。面裏の漆銘から、鳥取藩池田家旧蔵の面であること、享保7年(1722)に、大野出目家6代の甫閑満猶によって制作されたことが分かります。

3は、中村家に伝来した、直彦が作成した能面の石膏型。裏に刻銘「昭和十一年/六月十六日」、墨書「姥 池田家伝来/井伊家」とあること、全体の表情や皺の数、位置も一致することから、2の石膏型であることが分かります。

能面の写しを作成する際には、面の縦横の断面を記録した切型という道具を使うのが一般的ですが、直彦は、東京美術学校(現在の東京藝術大学)在学中に学んだ塑造技法を用いて、面の表面全体を



3 能面石膏型 姥

石膏で写し取る石膏型を作成しました。石膏型の表面にある細かい皺は、面を保護するために表面に置いた素材の皺と考えられます。直彦はこのような石膏型を200点余作成しており、その内29点に「井伊」と記されています。能面の石膏型は管見の限り他に確認されておらず、東京美術学校出身の直彦ならではの発想として非常に興味深い資料です。

4 能面^{のうめん} 蜘蛛^{くも} 1面 (作品リストNO.12)

中村直彦作

面長 20.8cm 面幅 16.2cm 面奥 9.8cm

大正時代～昭和時代初期

当館 (井伊家伝来資料)

直彦の手になる鬼神の面の一つ。能^{つちぐも}〈土蜘蛛〉のシテ(主役)、妖怪・土蜘蛛に使うことを想定したものと考えられます。全面を濃い群青色とし、大きな口からは真っ赤な舌と鋭く長い牙を覗かせた、まさに悪鬼に相応しい面です。抑揚のある巧みな彫技によって、力強い鬼神の相貌を生き生きと表現しています。

なお、「能面石膏型 蜘蛛」(作品リストNO.13)は、本面の石膏型、もしくは、本面がこの石膏型を元に作成されたものと考えられます。



5 能面^{のうめん} 瘦女^{やせおんな} 1面 (作品リストNO.26)

中村直彦作

面長 21.1cm 面幅 14.6cm 面奥 7.4cm

大正時代～昭和時代初期

当館 (井伊家伝来資料)

冥途^{めいど}から立ち現れた中年の女性の亡霊、あるいは老女の亡霊の相貌を表す面。その名称の通り^{ほおこ}頬は^{がんか}瘦け、眼窩は^{うつ}落ち窪み、眼を伏せて口をわずかに開いた表情は、力無く虚ろです。さらに、微妙な凹凸表現とそれに合わせて施された彩色が相まって、一般的な^{やせおんな}瘦女の面とは違い、まるで瘦せ衰えた人間の顔を写したような、生々しさを感じさせる相貌になっています。このような、伝統的な能面にはない生々しい表現は、東京美術学校で彫刻を学び、肖像彫刻も手がけた直彦ならではの^{うつつ}特徴と言えるでしょう。



6 彫刻刀および彫刻刀筆筒 1式 (作品リストNO.16)

筆筒：縦 38.4cm 横 30.2cm 高 85.0cm

明治時代後期～昭和時代初期

中村美恵子氏・暁氏

中村家に伝来した直彦所用の彫刻刀と、それを収める彫刻刀筆筒。能面の制作に必要な様々な種類の彫刻刀をはじめ、鉋、鋏などが収められています。彫刻刀の中には、柄に金泥、銀泥、朱漆、黒漆で「直彦（花押）」と記したものもあります。また、面の裏に押す焼印も残されています。



花押のある彫刻刀



焼印「中村直彦」